

1. 基本情報

- (1) 国名：サモア独立国
- (2) プロジェクトサイト／対象地域名：ウポル島アピア市郊外
- (3) 案件名：
ヴァイシガノ橋架替計画（The Project for Reconstruction of Vaisigano Bridge）
- (4) 事業の要約：本事業は、サイクロンによって損傷したヴァイシガノ橋を大型の自然災害にも耐えうる新橋として建設することにより、現在通行禁止になっている大型コンテナ車輛等が通行できるレベルへの機能復旧・自然災害への強靱化を図り、もって同国の脆弱性の克服に寄与するもの。

2. 事業の背景と必要性

- (1) 当該国における道路セクターの開発の現状・課題及び本事業の位置付け
サモア独立国は、総人口の約8割にあたる14万人以上が、首都アピア市のあるウポル島に居住している。国内道路総延長は1,150km、橋梁は52橋、このうち44橋はウポル島にある。ヴァイシガノ橋は、首都アピア市とサモア唯一の商港であるアピア港や、ファガリ―空港（国内線）をつなぐ道路上の橋である。20世紀初頭に建設され、1953年及び1994年に再改修がなされたが老朽化が著しく、2012年の大型サイクロン「エヴァン」による被害も加わり、橋梁下部のコンクリートの剥離、鉄筋の腐食といった損傷が確認されており構造的に危険な状況である。交通量は2003年から2013年の10年間で約1,700台/日増え、現在は平均14,300台/日の交通量になっている。また、2002年以来、老朽化から大型コンテナ車等の通行は禁止されている（その他一般車両は通行可）。サモア政府は、「サモア開発戦略2012-2016」の中で、インフラ整備を優先分野とし、気候変動に対応できる強靱な道路建設の拡充を目標にしており、本事業は、2011年策定の「サモアインフラ戦略計画」においても優先道路プロジェクトの一部に含まれており、ヴァイシガノ橋の架替が喫緊の課題となっている。
- (2) 道路セクターに対する我が国の協力方針等と本事業の位置付け
2015年5月開催の第7回太平洋・島サミットで採択された「福島・いわき宣言」の中で、強靱なインフラ整備による防災分野での強靱性の構築が挙げられている。対サモア独立国国別援助方針（2012年4月）では、重点分野に「脆弱性の克服」を掲げており、大洋州地域 JICA 国別分析ペーパー（2014年12月）では、運輸交通分野における道路・橋梁の状況の悪化にふれ、「経済活動基盤の強化／ライフラインの維持」を協力重点分野として位置付けており、本事業はこれら方針に合致する。
- (3) 他の援助機関の対応
上述の大型サイクロンによる国内幹線道路・橋梁被害の復旧工事支援の為、世銀と豪州政府が「道路アクセス強化プログラム」（32 百万米ドル）を 2013 年から 5 年間の予定で実施中。対象にしている橋梁補修・架け替えは、本事業対象のヴァイシガノ橋以外で修復ニーズの緊急性が高い橋梁の修復・新設を予定。

(4) 本事業を実施する意義

本事業は、サモア政府の開発計画重点分野及び我が国の援助方針にも合致することから、我が国が本事業の実施を支援する必要性及び妥当性は高い。

なお、サモアの所得水準は相対的に高いことから、「所得水準が相対的に高い国に対する無償資金協力の効果的な活用について」に基づき、無償資金協力の供与の適否について精査が必要である。

サモアは、サイクロンや洪水により度々甚大な被害を受けており、①災害に際し、被害の拡大や再発を避けるために迅速な対応が必要であり（「緊急性・迅速性」）、また、②人間の安全保障の観点から、自然災害など個人の尊厳、生命、生活に対する脅威への対応が必要である（「人道上のニーズ」）。

したがって、本事業は、上記の観点を満たすものであり、無償資金協力の供与が適当と判断できる。

3. 事業概要

(1) 事業概要

① 事業の目的

本事業は、サイクロンによって損傷したヴァイシガノ橋を大型の自然災害にも耐えうる新橋として建設することにより、現在通行禁止になっている大型コンテナ車輛等が通行できるレベルへの機能復旧・自然災害への強靱化を図り、もって同国の脆弱性の克服に寄与するもの。

② 事業内容

ア) 土木工事、調達機器等の内容

新橋の建設、アクセス道路建設、現橋（約70m）の撤去、迂回道路設置
（詳細については協力準備調査にて確認する）

イ) コンサルティング・サービス/ソフトコンポーネントの内容

詳細については協力準備調査にて確認する。

ウ) 調達・施工方法

詳細については協力準備調査にて確認する。

③ 他の JICA 事業との関係

特になし。

(2) 事業実施体制

① 事業実施機関／実施体制：サモア陸運局（Samoa Land Transport Authority）

② 他機関との連携・役割分担：特になし。

③ 運営／維持管理体制：サモア陸運局（Samoa Land Transport Authority）が、同国内のすべての道路・橋梁の維持管理を行っている。同局の職員は 96 名（2013 年）、予算は中央政府からの毎年の予算と自己資金歳入からなり、2012 年度予算（実績）は、33.86 百万サモアタラ（約 18 億円）。財政面・技術面の能力については、協力準備調査にて詳細を確認する。

(3) 環境社会配慮

① カテゴリー分類 ☐A ☒B ☐C ☐FI

② カテゴリー分類の根拠：本事業は、「国際協力機構環境社会配慮ガイドライン」

(2010 年 4 月公布) に掲げる影響を及ぼしやすいセクター・特性及び影響を受けやすい地域に該当せず、環境への望ましくない影響は重大でないと判断されるため。

- (4) 横断的事項: 本案件は気候変動の影響によりサイクロンが発生しやすくなっている地域のインフラ整備であり、気候変動への適応案件と位置付けられる。
- (5) ジェンダー分類: ジェンダー主流化ニーズ調査・分析案件
- (6) その他特記事項: 特になし。

4. 過去の類似案件の教訓と本事業への適用

ラオス国「ヒンフープ橋建設計画」の事後評価(2013 年度)等では、建設事業と並行してあるいは完工後に、橋梁維持管理の技術に係る技術協力プロジェクトを実施すべきかを検討することが望ましいとの教訓を得ている、本事業においても先方政府機関の維持管理能力を確認し、ソフトコンポーネントや技術協力の必要性を確認する。

以 上

[別添資料] 地図

プロジェクトサイト位置図

